

「水処理の英語表現」 その1

~English Expression of Water Treatment~

グローバルウォータ・ジャパン代表 吉村和就

(国連環境テクニカルアドバイザー)

水環境問題は今や全地球的な課題と言っている。ところが、優れた研究や実績が数多くあるにも関わらず、主要言語である英語で世界に発信された日本語の事例は多くはない。英語は目的ではなく手段ではあるが、その手段として基礎的な英語表現を身につけるとともに英語に触れる時間を増やすことが重要である。そこで、吉村和就グローバルウォータ・ジャパン代表に、自然科学、特に水処理に関わる研究者や企画・営業マンに向け、知っているとは様々な現場で役に立つ英語表現について連載していただくことにした。

1 世界に通じる英語を習得するには

世界中で水環境問題が取り上げられ、水ビジネスが加速している。

その問題解決の為に世界中の多くの科学者や研究者が研究開発に邁進している。もちろん研究したことを英語で発表し、海外の相手と意見交換、会談、実行しなければ最先端の動きから取り残される。

筆者のニューヨーク国連本部勤務の経験からみても、日本には優れた研究や成果が沢山あるのに英語で発信された事例は少ない。さらに驚くことは、その研究開発で実証された水処理装置やプラントの英文情報が少ないことである。

では日本人には英語表現や情報発信に興味がないのか。ところが本屋には「最強の英語上達法」、「英会話の上達法・裏技マニュアル」、「やり直しの英会話」など、果ては「聴くだけで判る英語表現」な

ど、思わず手にとってしまったようなタイトルの本が並んでいる。

一方専門書のコーナーでは、専門家向けに書かれた難解な専門書が書棚に林立している。

つまり日本の英語表現に関わる本は「素人向け」と「専門家向け」に二分されており、中間層向け「とりあえず通じる」基礎的な英語表現を収録した本はほとんど見当たらない。ましてや「水に関する英語の表現集」など皆無である。

そこで今回は水処理や海外水ビジネスに関わる人々(研究者、企画部員、営業マン)にとり「肩肘を張らずに、外国人と円滑なコミュニケーションが取れる」ことを目指し、筆者が国連の会議やISO国際会議での現場経験を踏まえ、「英語で発表する時に役立つ、重要なかつ頻出する事例」を集めてみた。この「水処理の英語表現」シリーズが世界に飛び出す参考になれば幸いである。

1) 中学程度の表現構文(主語+動詞+補語)を完全に理解し、すぐ口に出せること。もちろん水処理の英語表現(技術用語、その述語)を習得することは必須である。特に化学用語は気を付けること。例えばナトリウム、カリウムの英語は?

2) 多くの英文を読み、難解な所は最初は飛ばし読み、大まかな意味が掴めるよう訓練すること。英語が母国語以外の外国人と日本人の英語力(読解力)を比較すると基礎学力は日本人の方が上の場合が多い。言えることは、日本人は英文に触れ合う時間がすくないだけだ。毎日英語と触れ合う、つまり「習うより、慣れる」である。

3) プレゼンに際し、日本人のほとんどは書かれた原稿の棒読みであるが、これでは絶対に聴衆の心には届かない。基本的な事項を頭の中にインプットし、相手

の顔を見ながら大きな声でプレゼンする、発音や構文が多少間違っている、自信ある態度で積極的に発言すれば、相手が理解するように努めてくれる。

4) 日本には、タダで使える英語教材が溢れている。NHKの二カ国語放送、BS放送、映画放送、AFN(世界各地にある米軍放送局、日本ではEagle 810)インターネットでの英語ニュースも狙い目。また英語のテキストを見ながら発音も確認できるサイトもある。(NHKラジオジャパン、世界各国編 <http://su.co>)

5) 日本語を入れると英文に訳してくれるサイトも多い、ただし水処理用語は判らない意味に翻訳される可能性も大きい。(放流す

・文章やプレゼンで使う英語「イギリス英語かアメリカ英語に統一」すること。

米語 (アメリカ)	英語 (イギリス)	意味
analyzed	analysed	分析された
analyzer	analyser	分析器
behavior	behaviour	挙動、作用
catalyze	catalyse	触媒作用を起こす
vapor	vapour	蒸気
gage	gauge	ゲージ
minimizing	minimising	最小化する
centimeter	centimetre	センチメートル
emphasize	emphasise	強調する
characterize	chracterise	特性を与える

・たぶんの確率

確率の度合い	単語表現
100%に近い	Surely, certainly
60~80%	likely
50%以上	Possibly, probably
50%くらい	Maybe, perhaps
50%以下	Maybe, hopefully

・特に発音に注意する元素記号 (日本人特有の間違が多い)

元素記号	日本語	英語表現	発音 (近い発音)
Al	アルミニウム	Aluminum	アルミナム
Sb	アンチモン	Antimony	アンティモニー
U	ウラン	Uranium	ユラニウム
K	カリウム	Potassium	ポタシウム
Xe	キセノン	Xenon	ジイノン
Cr	クロム	Chromium	クロミウム
Ge	ゲルマニウム	Germanium	ジュミニウム
Ti	チタン	Titanium	タイタニウム
Na	ナトリウム	Sodium	ソディウム
As	ヒ素	Arsenic	アルセニク
F	フッ素	Fluorine	フローリン
Mn	マンガン	Manganese	マンガニーズ
Li	リチウム	Lithium	リシウム
P	リン	Phosphorus	フォスフォラス

日本の化学記号はドイツ語由来であり、発音に注意すること。

るは Discharge だが、放電と訳される場合が多い)

6) 自分で作った英文を入れると英語で発音(男性の声か女性の声かを選べる)してくれる。これはプレゼンの勉強にもなり、面白い。このサイトは米国の電話

会社ATTだけあって米国英語、英国英語、スペイン語、ドイツ語、フランス語も選べる。

<http://public.research.att.com/~ttsweb/tts/demo.php>

・注意すべき英語表現

イギリス英語では our で終わる単語がアメリカ英語では or で終わる例が多い。要するに米語は省略形が多い。

例

臭気	Flavour	英語
色	Colour	米語
労働者	Labour	
	Labor	